

市民公開講座

10月29日(土) 13時より 大阪物療大学 4号館にて第2回市民公開講座が第7回物療祭と同時平行にて開催されました。

(主催 大阪物療大学、後援 堺市)

(司会 本学 保健医療学部 診療放射線技術学科 山田 淳子 講師)。

「乳がんから命を守るために」というテーマで、基調講演に本学 保健医療学部 診療放射線技術学科 西浦 素子 助教、特別講演に日本乳がんピンクリボン 初代事務局長 松田寿美子 先生をお迎えしての講座でした。非常にわかりやすく、また非常に印象に残る市民公開講座となりました。

ご参加いただきました皆様、ありがとうございました。次回の開催につきましては、詳細が決定次第順次ホームページ上で更新いたします。

【ご挨拶 学長 田中 博司】



「本日はお忙しい中、本学の第2回市民公開講座にお越しくださいます。ありがとうございます。今回の講座が皆様のお役に立てれば幸いです。」

【基調講演 13:15～14:05】

-「乳がん検診の現状と問題点」-



「がん検診受診率 50%以上をめざし、早期発見、早期治療を実現しましょう。」

【特別講演 14:25～15:25】

-「乳がんから生命を守るために」-



「病気・健康のことを考えられる幸せを認識してください」

「愛する家族、パートナーのためにももっと乳がんへの意識を高めましょう」

(当日の内容)

【基調講演】

がんは女性がかかる第1位のがんで、その数は年々増え続けています。また乳がんは働き盛りの女性、子育ての最中の40～50代に最も多いのが他の癌と違い大きな特徴ですが、定期的な乳がん検診を受診することで早期発見・治療が可能ながんの1つでもあります。

10月はピンクリボン運動月間になっており様々な場所で乳がん検診受診の啓発運動が行われています。また国も女性特有がん検診推進事業の1つとして、無料クーポン券を配布し受診率向上を目指しています。しかし受診率は先進諸国と比べるとまだまだ低いのが現状です。

本日は乳がんに関する基礎知識及び乳がん検診で実施されるマンモグラフィの内容も含めつつ乳がん検診の現状とその問題点をお話いたします。

【特別講演】

ご存知ですか？日本女性が罹る悪性疾患第1位の病気は何かを・・・それは「乳がん」です。世界的な乳がん啓発活動であるピンクリボン運動は、日本でも社会的な認知度も高くなりましたが、“検査を受ける”という行動は前進することなく、日本の受診率は欧米の受診率には遠く及ばない現状です。日本では罹患率の増加だけでなく、死亡者数も増加しています。

対象となる女性のみなさんは、なぜ乳がん検査を受診されないのでしょうか？若い女性にとっても乳がんは決して他人事ではなく「20歳過ぎれば乳がん年齢」です。また「乳がんは女性の病気、僕たちには関係がない」と考えている男性も多いのではないのでしょうか。乳がんは患者さんの命に関わる重大な病気であるだけでなく、お子さんの将来やパートナーの人生に大きな影を落とす社会問題です。

女性は乳がん検査を受けてご自身を乳がんから守りましょう！

男性は「検査を受けないとダメだよ」と背中を押すことを通じて、あなたの愛する女性を乳がんから守りましょう！